

皆満寺通信

第32号

法語

言葉に迷い、言葉に傷つくが
同時に言葉で目覚めるのである

法語に思う

私たちの日常は家族や友人など近い間柄でも、言葉によるすれ違いや誤解が絶えません。言葉に迷い、傷つけあうのが私たちです。しかし、私たちは言葉に出会い、言葉に救われ、言葉に気づかされます。

仏法は聴聞するものだと言われます。法を聴き法に聞く。聴かなければ聞こえてこないものがある。それは聴いたからこそ聞こえたものでもある。聞こえたということはとても大きな意味を持つように思います。聞こえたことでいよいよ聴くということに身を入れて聴くようになる。その循環の中に身を置くことの大切さが知らされます。

宗祖親鸞聖人



御誕生

立教開宗

850th
800th



真宗大谷派（東本願寺）

宗祖親鸞聖人
御誕生850年
立教開宗800年
慶讃法要厳修

2023年（令和5年）は浄土真宗が親鸞聖人によって開顕され800年、また親鸞聖人ご誕生850年という節目の年です。3月～5月にかけては御誕生850年・立教改宗800年慶讃法要がご本山でお勤まりになります。

慶讃法要とは宗祖のご誕生、立教開宗を慶び讃える御仏事です。その機縁に遇うということは、念仏の教えに出会い、自らにかけられた願いに領き、尊きいのちに目覚め、生きる喜びに遇う「報恩」の営みの歩みが始まっていくということではないでしょうか。

かけがえのない生涯において、かけがえのない時と場所を賜る。自分の歩みを見つめなおしていく機縁にしたいものです。

2023年4月8日(土) 第1期法要御満座団体参拝

コロナ禍にありますが、知多地域の門徒全体で4月8日（土）の第1期法要御満座へ団体参拝することになりました。席数は知多半島の真宗寺院29ヶ寺で290席、当寺へは20席の割当です。整い次第ご案内いたします。よろしく願いいたします。

慶讃法要ご懇志のお願い

慶讃法要をお勤めするにあたり当寺にも所属門徒数に応じて、130万円の慶讃法要ご懇志のご依頼がなされております。コロナ禍にあり大変恐縮に存じますが、お一人当たり 3,000円のご

懇志を今秋の拙寺の報恩講志のご依頼と同時に法要懇志を勧募させて頂きたいと思ひます。何卒宜しくお願い致します。

「浄土の真を宗とする」

親鸞聖人が開顕された浄土真宗というのは、単にいち仏教集団・宗派の名称ではなく、親鸞聖人が師である法然上人から受け取られたお念仏の教えをご自身の受け止めとして現わされた「浄土の真を宗とする」という言葉です。その言葉は東西本願寺をはじめとした宗派の名称や、親鸞聖人のお念仏を受け継ぐ教えそのものを現わす言葉となり現在に至ります。

親鸞聖人にはご自身が浄土真宗を開いたという意味は全く持ち合わせていなかったと言われています。それは、聖人ご自身が浄土真宗を開かれたのは師である法然上人であると仰っておられることから明らかだと思います。

では、私たちはなぜ親鸞聖人を宗祖と仰ぎ、浄土真宗を開かれたと仰ぐのでしょうか。それはその受け止めをご自身の言葉で残してくださったからこそ、私たちがお念仏の教えにお会いできたのだということに他ならないからなのではないかと思ひます。

私たちの先達は、ことある度にその節目を「大切な仏縁」といただいてまいりました。今もまたそうであるように、これまでも幾多の困難の中でも念仏の教えは絶えることなく手渡され、私たちの手に届いています。手渡されたものを同じようにまた手渡し、のちの世にお伝えしていくことをさせて頂きたいものです。

南無阿弥陀仏

人と生まれたことの意味をたずねていこう

報恩講円成の御礼

昨秋の報恩講は新型コロナウイルス感染症の波と波の間のような時期に入り、ほぼ例年通りの報恩講をお勤めすることが叶いました。通信を出せないうちに今年の報恩講まであとわずかという頃になっての御礼となり心苦しく思ひますが、一言御礼申し上げます。有難うございました。

本年の報恩講については来月に予定しています次号にて改めてご案内いたしますが、出来る限りの感染対策を講じてお勤めさせて頂きたく存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。

皆満寺

宗祖親鸞聖人 750 回御遠忌法要 令和 5 年(2024 年)執行へむけて

2011 年、あの東日本大震災の年に私たち浄土真宗の門弟は親鸞聖人七百五十回御遠忌法要をお勤め致しました。それから 10 余年を経ていよいよ皆満寺で宗祖 750 回御遠忌法要をお勤めさせて頂きたいと思ひます。

およそ 50 年前の 1971 年 3 月に皆満寺において当時の新門（門主継承者）をお招きして宗祖 700 回御遠忌法要が盛大に勤められました。私（住職）はその法要を母のおなかの中でお参りさせて頂いていたようです。

それから 50 年（私も昨年 50 歳を迎えました）を経てお寺としても 750 回御遠忌をお迎えしていく時が巡ってきています。100 年に一度という感染症流行の最中というタイミングではありますが、何とか皆様とその節目をお迎えして参りたいと思ひます。

コロナ禍にあり、2009年にお勤めさせて頂きました本堂ご修復落慶法要・蓮如上人500回御遠忌法要のように500人規模の稚児行列のあるような大法要をお勤めすることは適わないと思いますが、その時々状況に即した形を模索しつつ準備を進めさせて頂いております。

現在、法要の実現に向け実行委員会の立ち上げ準備を進めています。漸く整いつつあり、年内にはご案内させて頂くことができそうです。その節には改めてご協力のほど宜しくお願い致します。

書院改修工事進捗 並びに 境内北側町道擁壁工事完了のご報告

前号でお知らせした客殿・書院の改修工事はお陰さまで順調に進み、予定通り10月には完成の見込みです。

古い建物を活かした改修は叶わず、残すことが出来たのは茶室のみとなりましたが、これまでに過ごしてきた時と場所を感じられるように最小限ではありますが、建具等手に触れるところも極力残すこともできました。



移設した出書院と床柱

住職とその家族が住まわせて頂いておりますが、お寺は皆様方ご門徒の為にあります。新しくキッチンを備えた控室も設けましたので、お寺でのご法事などの際には、これまでよりもお寺を利用しやすくなるのではないかと思います。皆さまのお寺です。様々にご利用いただければと思います。



廊下をミニギャラリーなどにも使えそうです



町道擁壁工事は予定よりも遅れましたが3月に着工し、6月末に完成しました。崩れて2年余りが経っていたので皆様にご心配をおかけしておりましたが、ようやく皆様にご安心頂くことができました。

境内の外構工事など全ての工事完了まではもうしばらくかかります。何かとご不便をお掛けしますが、何卒よろしくお願い致します。

衆徒得度のご報告

次男が満9歳を迎え、8月4日にご本山にて宗祖親鸞聖人のご真影の前で
お得度を受けさせていただきました。

130名ほどの受式があり、感染対策
として受式の証である「度牒（どちょう）」の個々への授与式は見送られ後日
郵送されてきました。自分の手で受け
取るということの大切さが失われ寂し
さもありましたが、手渡されるという
ことの意味を問う得度式でありました。



度牒（どちょう）には法名が記されます

定例会

～さんかの会～

讃歌と仏語を楽しむ会

毎月第2、第4金曜日

～皆画の会～

絵と仏語、折り紙の会

毎月第1金曜日（第3又は第5に変更の場合有り）

どちらも午後1時半から4時頃まで

会費：1回100円（おかし代）

その他

満たんヨガ

毎月最終月曜日

午後7時半から9時まで

講師 新美成果さん

参加費1,000円（高校生以上）

【後書き】

★世界には6900ほどの言語があるそうです。そこまで多くなったのは「大切にしているものの違い」によって多岐に分かれ多様化したのだとある学者が言っていました。大切なものの違いが元だという話はとても興味深いものでした。お釈迦様の言葉も国と地域を超え伝わってきました。その言葉は訳すことが困難なものもあり、そのまま音写されたものも多くありますが、琴線に触れ、響きあい大切にされてきてきたのだなあと改めて私に届いたことに感銘を覚えた。◆当寺の報恩講もお寺に古くから続く御講や、地域の組を中心に響きあう言葉を介して受け継がれてまいりました。近年、講や組を維持することが難しくなっており、地域の役員を欠いているところも出てきました。伝統を維持していくのは容易いことではありませんが、現在までに届いている願いを今後も引き受け繋いでいきたいと願っています。伝統とは変容を拒むものではなく、時々の変遷を経て今日まで受け継がれてきたものだといえます。ご門徒のみなさまのご理解とご協力を今後とも宜しくお願い致します。

「皆満寺通信」 第32号

2022年9月10日発行

〒470-2339

愛知県知多郡武豊町下門137

真宗大谷派 皆満寺

住職 永尾圭吾

TEL 0569-72-0435

FAX 0569-72-0740

URL <http://www.kaimanji.or.jp>

Mail jinguzan-137@kaimanji.or.jp